

中学生版

For
Junior High School
Students

おしごとガイドブック
～2024年度版～



HOKKAIDO



WORK GUIDE



北海道のしごと



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課



私たちの暮らす北海道は
たくさんの方の働きが支えています。
この冊子では北海道を支える産業の
仕事の様子を紹介します。

【図 34】 おしごとガイドブック～中学生版～（1 ページ目／全 8 ページ）

専門高校が取り組んでいる

専門高校では、北海道の未来を担う人材の育成に向けて、企業や小・中学校との「縦」のつながりと、学科の垣根を越えた専門高校同士の「横」のつながりの両面から、創意工夫のある産業教育に取り組んでいます。

北海道教育委員会では、こうした取組を通じて、生徒一人一人がもつ可能性や能力をさらに高める産業教育を推進し、次世代の産業の担い手となる人材の育成を進めていきます。



「海の見える化」

スマート水産で

【専門高校×地元企業の産学連携】

「水中ドローン」・「空中ドローン」は、水産業や海運業において、省力化や見える化、作業効率化などの点で、今後、より効果的な活用が期待されています。

厚岸翔洋高校では、潜水事業やドローン事業を手掛ける株式会社大歩の協力や支援を得て、各種ドローンの法令教育をはじめ、実践的かつ安全な操縦訓練のほか、地域の漁業従事者との「海の見える化」に向けた取組などを通して、スマート水産業に関する実践研究を推進しています。

厚岸翔洋高校 × 株式会社 大歩

新たな農業生産の可能性について学ぶ

【専門高校×地元企業の産学連携】

富良野緑峰高校は、エネルギーや農業、食関連の企業と連携し、高濃度酸素水を活用したメロン栽培の研究に取り組んでいます。2年間の調査を通して、収穫までの日数が早まるといった効果が明確になった一方で、灌水などの作業効率に課題があることも分かりました。生徒たちも地域特産物のよりよい栽培体系について学びを深めることができ、将来の持続可能な農業生産の在り方について深く考える機会となりました。

富良野緑峰高校 × エア・ウォーター北海道株式会社



商品開発

地元特産品を活用した

【専門高校×地元企業の産学連携】

苫小牧総合経済高校流通経済科では、菓子・パンの製造・販売を行う株式会社三星と、地元の特産品などを活用したコラボ商品の開発に取り組んでいます。

コラボ商品に関する企業からのオーダーを確認後、生徒が市場調査等を行い、商品を企画・立案し、企業にプレゼンテーションを実施します。社内で検討後、可能性が見いだされた企画については、サンプルの製造や学校との打合せなどを行い、製品として販売されます。

苫小牧総合経済高校 × 株式会社三星

「縦」と「横」のつながり



【学科の垣根を越えた連携事例】

本道の基幹産業である農業を担う人々の負担軽減を目的に、学科の異なる生徒が連携し、ビニールハウスのスマート化などに取り組んでいます。札幌工業高校の生徒が、ビニールハウス内の温度・照度の自動計測や散水等の遠隔制御を可能とするシステムを開発し、岩見沢農業高校のハウス内で、両校による実証実験を行っています。農業と工業の学びが、実社会でどのように必要とされているかをより深く理解することができ、将来の活躍の場を広げています。

岩見沢農業高校 × 札幌工業高校

【学科の垣根を越えた連携事例】

産学連携の推進に取り組んでいるノーステック財団の協力の下で両校が連携し、それぞれの学科の強みを発揮しながら、共通のテーマで「課題研究」に取り組んでいます。昨年度は、両校によるキックオフイベントや、両校が連携して開発したアイスクリームの販売会などを行い、今年度は、ご当地グルメ「あったか旭川まん」やイベント限定デザインの木工マグネットを開発し、市内で開催されたイベント「北の恵み食べマルシェ」で販売しました。

旭川農業高校 × 旭川商業高校



【専門高校と中学校技術科の連携事例】

滝川工業高校では、工業高校の学習内容や魅力を発信することを目的として、生徒が講師役を務め、市内の小中学校で出前授業を行っています。

中学校の技術科で実施した出前授業では、中学生が高校生のアドバイスを受けながら、プログラミングによるロボットカーの操作方法を学び、障害物を避けたり折り返したりするプログラミングに取り組みました。調整を重ねてロボットカーがゴールにたどり着くと、拍手や歓声が起きていました。

滝川工業高校 × 市内の小中学校





HOKKAIDO

スマート農業

北海道のしごと

先端技術とその効果



先端技術でニーズに合った商品を実現

ミニトマトを栽培するハウスは、温度や湿度、照度等を設定し、自動制御で管理しています。また、収穫後のミニトマトは、糖度測定装置が内蔵された選別機を使い、消費者のニーズに合った商品を提供しています。

農業者の道を志したきっかけ

幼い頃から植物に触れることが好きで、将来は農業関連産業に就きたいと考え、岩見沢農業高校に入学しました。今の会社で就職を決めたのは、直売所での販売や、新千歳空港の草花装飾など、生産物を直接お客様に届けられる点に魅力を感じたことがきっかけです。



自分が栽培した花で空港を彩る

新千歳空港の装飾で使用する、草花や観葉植物を栽培する部門のリーダーとして、毎日、植物の状況を観察しながら作業内容を決め、パートさんへ業務を伝えています。北海道の玄関口を季節に合った装飾で彩ることができるように頑張っています。



株式会社北海道興農社

吉田 理乃さん

岩見沢農業高校
農業科学科卒業



HOKKAIDO

スマート水産業

北海道のしごと

先端技術とその効果



海洋環境を見える化

海水温度をリアルタイムで可視化し、データを蓄積できるスマート水産の装置を導入しました。得られたデータは、漁業者のほか、函館水産高校などにも提供しており、カキやウニなどの養殖管理に活用されています。

育てた海産物を食卓へ

ウニ種苗センターは、ウニのほか、クロソイやコンブなど、様々な魚介類を育てており、函館水産高校で学んできたことが、この仕事をする上で大きな力となっています。今後は、効率的に生産性を上げられるよう取り組んでいきたいです。



緊張感にやりがい

魚介類を育てることは、プレッシャーを感じることもあります。水産高校の学びを生かすことができることや、自分が管理を徹底して育てた魚介類が出荷されることにやりがいがあるほか、職員やパートさんとコミュニケーションを取り、楽しく働いています。



上磯郡漁業協同組合
(ウニ種苗センター)

門間 渉さん

函館水産高校
海洋技術科卒業



【図 37】 おしごとガイドブック～中学生版～（４ページ目／全８ページ）



HOKKAIDO

半導体関連産業

北海道のしごと

先端技術とその効果



工場では多くの電力を使用するため、大規模太陽光発電システムを導入し、CO₂排出量の大幅な削減を実現しています。また、昨年、工場内で荷物を運ぶ自動搬送ロボットを入れ替えし、業務の効率化に役立っています。

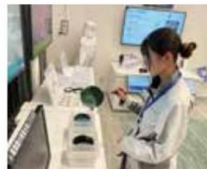
好きな「ものづくり」を生かせる半導体産業

胆振東部地震を経験したことで電気の重要性に気付き、工業高校を志望しました。好きな「ものづくり」に携わることができ、就職先を探していたところ、スマートフォンや家電製品などに使用され、今後成長を続けていく半導体産業に魅力を感じました。



オペレーターの仕事内容

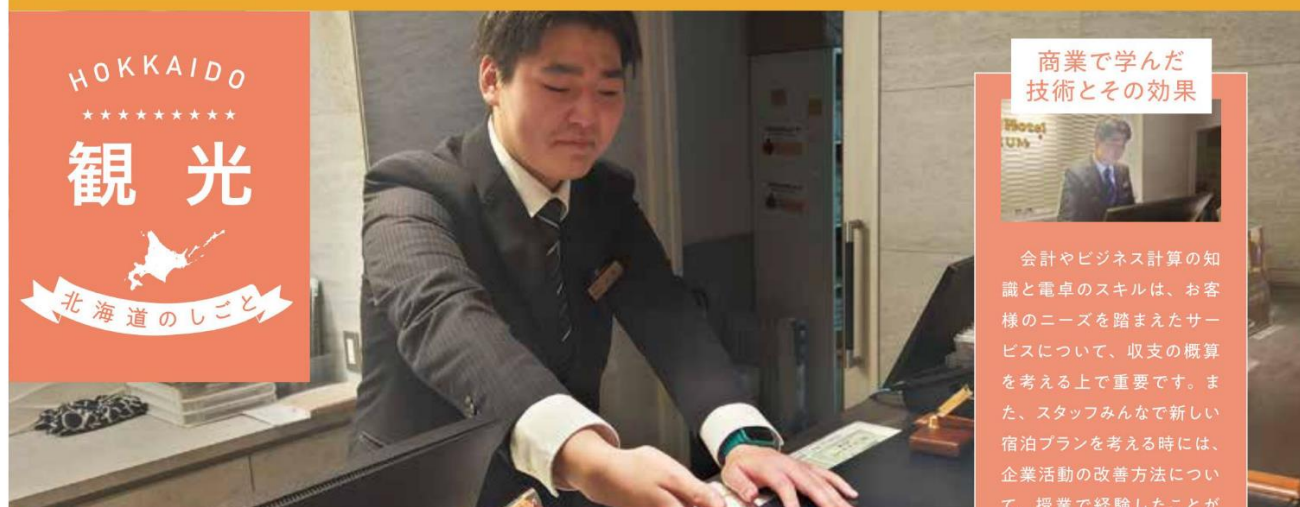
薄い円盤状のシリコンウェハーを加工するオペレーターとして、製造工程の仕事に携わっています。装置に異常がないかの点検や、消耗品の交換などを行っています。ガスや薬剤などの危険な物品を扱うこともあります。高校時代の安全教育が生きています。



ミツミ電機株式会社

大森 水産さん

苫小牧工業高校
電気科卒業



HOKKAIDO

観光

北海道のしごと

商業で学んだ技術とその効果



会計やビジネス計算の知識と電卓のスキルは、お客様のニーズを踏まえたサービスについて、収支の概算を考える上で重要です。また、スタッフみんなで新しい宿泊プランを考える時には、企業活動の改善方法について、授業で経験したことが役立っています。

今の仕事に就職するまで

飲食店で働く母の姿を見ており、中学の時から将来は、「人の顔が見える」仕事に就きたいと考えていました。高校進学の際には、大学進学と就職、どちらにも強い商業高校に入学しました。ホテル業界への就職は、高校在学中に、友人に勧められたのがきっかけです。



ホテル「フロント」の魅力

堅い仕事だと思われるかもしれませんが、お客様のリクエストに、どのように対応するか考えることが楽しい仕事です。「食」に関する質問や、お部屋の御希望など様々なリクエストがありますが、お客様からお礼と言われると嬉しくなります。



株式会社ホスピタリティ
オペレーションズ
(スマイルホテルプレミアム
札幌すすきの)

上西 星矢さん

札幌東商業高校
流通経済科卒業



【図 38】おしごとガイドブック～中学生版～（5ページ目／全8ページ）



HOKKAIDO ***** 洋上風力発電 北海道のしごと

先端技術とその効果



地中の作業では、電動で電線を通してくれるインバータウインチという最新機器を活用しています。あらかじめ設定した張力をオーバーするとブザーが鳴って自動停止するなど、安全な作業にとても役立っています。

今の仕事に就職するまで

中学校の先生から、「工業高校では、多くの国家資格などを取得でき、就職の選択肢も広がる」と勧められました。電気エネルギーは私たちの生活に欠かせないものですし、風車や発電所を建設することは、社会を支えているといったやりがいがあると思いました。



大きな達成感を得られる

風車の工事に携わることが多く、完成した風車を見ると大きな達成感があります。洋上風力発電の施設は、電線を地中に通す地中線路を使用しており、電柱や電線が見えなくなるなど、景観がよくなるほか、風や地震などの災害にも強いのが魅力です。



株式会社北海電工

石田 葵利さん

札幌工業高校
電気科卒業



HOKKAIDO ***** 建設DX 北海道のしごと

先端技術とその効果



道路の上にクレーンなどを配置する作業計画を立てる際、3Dレーザースキャナーで現場周辺の3次元データを取得でき、電線にぶつからないかなど、安全に作業を進めるための高さの検討やイメージがしやすくなりました。

今の仕事に就職するまで

中学生の時に、姉が通う札幌工業高校の学校祭に参加し、地図に残る建設業の仕事に魅力を感じ、建築科に入学しました。入社理由は、建設業界で働く姉から「女性も多く、工事全体の流れを学びながら管理できるよ」と勧められた影響が大きいです。



現場監督の魅力

マンションなどの建築現場では、大工などの高度な技能をもつ職人さんが協力して作業しています。現場監督の仕事は、それらの職人さんを束ね、工程管理や安全確保をすることです。CADで図面を作成し、全体を見渡して大きな建築物をゼロから完成できることも魅力です。



株式会社砂子組

渡会 菜喜さん

札幌工業高校
建築科卒業



【図 39】おしごとガイドブック～中学生版～（6 ページ目／全 8 ページ）

HOKKAIDO

医療
北海道のしごと

看護師としてのやりがい

オペ室の担当として、最新の医療機器の操作方法など、勉強しなくてはならないことも多く大変ですが、高校で学んだ基礎知識や衛生管理が生きています。患者さんの痛みが和らいでいることを感じたときや、感謝の言葉をいただいたときに、大きなやりがいを感じます。

現在の勤務先を選んだ理由

看護師になるという夢をもち始めた頃、看護科のある高校で学ぶことが最短ルートだと知り、地元を離れ、美唄聖華高校に入学しました。救急医療に対応する総合病院で多くの生命を救いたいと考え、救急患者の対応数が多い今の病院への就職を決めました。

札幌東徳洲会病院
武藤 かりんさん
美唄聖華高校
衛生看護科卒業

HOKKAIDO

福祉
北海道のしごと

思いやりを感じる先端技術

「見守り介護ロボット」により、職員が常に利用者様の状態を把握することができるようになるほか、夜間でも足音で睡眠を妨げないなど、利用者様にも私たちにも「思いやり」のある最新の技術が導入されています。このような技術の導入により、利用者様との信頼関係を築く時間が生まれます。

「HOL（ハピネスオブライフ）」がテーマ

「体の弱い母を支えたい」という思いで福祉の道を志しました。ここでは、利用者様との関わり方を学べるとともに、自分で考えたケアにも挑戦できるなど、職員として幸せを感じる職場を目指しています。尊敬する先輩に囲まれ、とても働き甲斐のある職場です。

社会福祉法人
北海道友愛福祉会
介護老人福祉施設
静苑ホーム
木下 扇さん
釧路高校
福祉科卒業

HOKKAIDO

ファッション
北海道のしごと

人と技術の相乗効果

現在は、初めての配属先で得た服飾の知識と技術を生かしつつ、上司や部署の皆さんに積極的に相談したり、デザインの構想に「チャットGPT」といったAI技術も駆使し、自分のアイデアを形にしてプレゼンをしています。サポートし合える環境にも恵まれた職場だと実感しています。

自分のデザインしたものが形に

自分の夢のために、服飾が学べる江別高校に進学し、現在は、服飾雑貨の仕様を決めたり、発注するものを社内会議でプレゼンしたりする仕事をしています。自分で企画やデザインしたものが、北海道の店舗でも販売されることもあり、この仕事に強いやりがいを感じています。

株式会社ハニーズ
ホールディングス
河野 美友さん
江別高校
生活デザイン科
卒業

【図 40】おしごとガイドブック～中学生版～（7ページ目／全8ページ）

産学連携の学びを通じて北海道の未来を創る



このガイドブックを手にとった中学生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。このガイドブックを手にとった皆さんが暮らしているここ北海道には、今、大きな変化が訪れています。洋上風力発電の導入・拡大や次世代半導体製造拠点の立地、宇宙関連産業の発展やDX(デジタルトランスフォーメーション)化などです。

こうした私たちの生活を支える技術は、日々進化を続けており、とりわけ2030年までの数年間は、大きな転換期になると言われています。新しい技術や産業が生まれている今だからこそ、中学生の皆さんには、未来を切り拓く大きなチャンスが広がっています。

このガイドブックは、中学生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や新たな働き方とともに、専門高校(職業に関する学科を設置する高校)について理解してもらうことを目的として制作しました。

このガイドブックを通じて、皆さん一人一人が、専門高校について理解を深めるとともに、北海道の高いポテンシャルに気付き、将来は、本道の未来の創り手となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

専門高校の生徒3名による対談

高校生たちが語る 産業界とつながった学びと 成長の物語

静内農業高校生産科3年の三浦 聖晴さん、
札幌工業高校土木科3年の飯島 道大さん、
旭川商業高校流通ビジネス科3年の佐藤 藍さんが、
専門高校における学習内容や産業界と連携した取組などについて
語ってくれましたので紹介します。(進行:月館)



企業と一緒に取り組んだプロジェクトが 地域の持続可能な発展を支える!

月館 「皆さんは、専門高校でどのようなことを学んでいるんですか?」

三浦 「私は、馬に関することを専門的に学んでいます。本校は全国の公立高校で唯一、馬の出産から競りでの販売まで、一連のプロセスを学べる学校です。入学当初は、馬との信頼関係を築くことに苦労しましたが、企業の方と一緒に馬の管理方法を学んだことで、今では楽しい毎日を送っています。」

月館 「とてもニーズのあるスキルで、すぐに社会で役立つ学びですね。」

飯島 「私は手を動かして学べることに魅力を感じ、札幌工業高校に入学しました。新幹線のトンネル工事の現場を見学し、建設業は地域に貢献できるやりがいのある仕事だと感じました。また、授業で実際に公園整備などのまちづくりに関わることができました。」



産業界と連携した体験的な学びで、社会に役立つ実感を得られた!

佐藤 「私は、地元企業や旭川農業高校と一緒にご当地グルメ『あったか旭川まん』の商品開発と販売プロジェクトに参加しました。販売戦略を考える中で、在庫が少なくなった時には企業の方に、迅速に対応していただき、仕事にはスピード感と柔軟な対応力が求められることを実感しました。」

飯島 「私は空き地の活用プロジェクトに参加して公園の整備を行い、工業高校で学んでいる設計や測量などの技術を生かす機会がありました。地元で役立っていることを実感でき、大きな自信になりました。」

月館 「皆さんは、それぞれの分野で、実際に社会で役立つ技術を学んでいて、社会に出る準備が整っているという感じがですね。専門高校での学びを、卒業後、どのように生かしていきたいと考えていますか。」



専門高校での実践的な学びで、 将来にわたって活躍できる!

三浦 「私は、競走馬を育てている方から学ぶ機会を通して、競走馬の調教やケアに携わりたいと思いました。高校で学んだ馬の知識を生かして、馬との信頼関係を築き、皆さんに夢を与えられる仕事に就くことが目標です。」

佐藤 「私は学校で学んだ販売や在庫管理のノウハウが役立つと思い、建設会社の事務職に就職します。」

飯島 「私は企業の方から学んだ土木の安全管理や施工技術をもっと深く学ぶため、工業系の大学に進学します。将来は、技術者として、災害に強いまちづくりを通して、地域に貢献したいです。」

月館 「皆さんが未来の北海道を支えている姿を見られるのを楽しみに待っています。今日は、ありがとうございました。」

高校生版

For
High School
Students

おしごとガイドブック
～2024年度版～



HOKKAIDO

★★★★★★★★

WORK

GUIDE



北海道のしごと



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課

私たちの暮らす北海道は
たくさんの方の支えで支えられています。
この冊子では北海道を支える産業の
仕事の様子を紹介します。

【図 42】おしごとガイドブック～高校生版～（表紙）

※高校生版は背表紙以外が中学生版と同一であるため、掲載を省略している。

産学連携の学びを通じて北海道の未来を創る



このガイドブックを手にとった高校生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。このガイドブックを手にとった皆さんが暮らしているここ北海道には、今、大きな変化が訪れています。洋上風力発電の導入・拡大や次世代半導体製造拠点の立地、宇宙関連産業の発展やDX(デジタルトランスフォーメーション)の導入などです。

こうした私たちの生活を支える技術は、日々進化を続けており、とりわけ2030年までの数年間は、大きな転換期になると言われています。新しい技術や産業が生まれている今だからこそ、高校生の皆さんには、未来を切り拓くチャンスが広がっています。

このガイドブックは、高校生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や新たな働き方を理解してもらうために制作しました。皆さん一人一人が、それぞれの学校で北海道を支えている地域の企業の方々などと共に学び、北海道の高いポテンシャルに気付くとともに、先端技術や新たな産業に触れることで学びが深まり、将来は、本道の未来の創り手となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

デジタル関連産業の集積と全道展開

北海道の冷涼な気候や豊富な再生可能エネルギー、自然災害リスクの低さといった優位性をアピールし、半導体関連産業やデータセンターなど、デジタル関連産業の集積が進みます。

また、デジタル関連産業が全道に展開することで、地域の産業・経済が活性化します。



大学教授による半導体出前講座
(釧路工業高校)

再生可能エネルギーでゼロカーボン北海道を実現

全国唯一のポテンシャルを持つ再生可能エネルギーを活用し、洋上風力発電や太陽光発電、グリーン水素などの普及が進みます。

新たなエネルギーが人々の生活を豊かにし、ゼロカーボン北海道を実現するとともに、サステナブル(持続可能)な魅力ある北海道を実現します。



洋上風力発電施設の見学
(小樽未来創造高校)

持続可能な食を支えるスマート農業・水産業を実現

ICTを活用したスマート農業・水産業を推進し、省力化や高品質化、収益性の向上を目指します。作物や魚の生育状態などをデータで管理することで、効率的な生産が可能になり、魅力的で高品質な食を持続的に生産・供給します。



水温などを測定する漁業のスマート化
(厚岸翔洋高校)

自然や食、文化などを観光資源として活用

北海道の美しい四季や食の魅力などを生かした満足度の高い観光地づくりが進み、観光客の増加による経済効果が期待されます。

また、観光アプリやデジタル技術を取り入れたスマートツーリズムが進みます。



どさんこプラザでの販売会
(更別農業高校)

安心して暮らせる未来の医療と福祉

医療分野では、遠隔医療などの医療のデジタル化が進み、地域における医療提供体制が充実します。また、再生医療をはじめとする高度先進医療が充実します。

介護分野もDX化が進み、誰もが安心して暮らせる環境づくりが進みます。



看護師への自覚を促す戴帽式
(美唄聖華高校)

新幹線の札幌延伸と交通ネットワークの強化

北海道新幹線の札幌延伸により、函館から札幌への移動時間が大幅に短縮されます。

また、広域な北海道において、持続可能なまちづくりや交通ネットワークが強化され、道外・国外からの観光客にとって魅力的な北海道が、更に身近になります。



新幹線トンネル工事の見学
(札幌工業高校)

【図43】 おしごとガイドブック～高校生版～（背表紙）

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」が、専門高校と産業界のサステナブルな連携に資するよう、事業所と専門高校を結ぶ「産業実務家教員リスト」を作成します。

専門高校とは農業・工業・商業・水産・家庭・福祉・看護に関する職業学科を持つ、特定の職業や学問分野に特化した高校のことです。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産業実務家教員

大募集!!



【産業実務家教員とは?】

専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のことを本事業では「産業実務家教員」と呼んでいます。

生徒に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供する事を目的としており、持続的で専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係を構築することを目指します。

期待される連携の例

出前授業

先生や
生徒への
技術指導

職場
見学等の
受入れ

機材の
貸与

【申込締切】

令和7年(2025年)2月14日(金)

【申込に当たって】

- 連携の際に、交通費や謝礼などの支払いはありません。
- 個人又は営業所や工場などの事業所単位で登録してください。

【登録方法】

下の2次元コードを読み込むか、URLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/DBKr921RfYCVkroS8>



登録フォームは
こちら

所要時間は10分程度です。

こんな方の登録をお待ちしています

- 高校と連携した取組を行いたい、どこに連絡をするべきか分からない方。
- 高校生に自社や業界の業務内容を是非知ってもらいたいと考えている方。
- 会社に高校生を招いて、職場の意識改革を行いたいと考えている方。
- 業界の発展のために、高校生を積極的に指導したいと考えている方。



登録されたらどうなるの?

登録していただいた皆様の情報を集めた「産業実務家教員リスト」を作成し、全道の専門高校に配付します。

専門高校は必要に応じて各学校のニーズに合わせて、リストの中の産業実務家教員に直接連絡を取り、具体的な連携の実施に向けて、打合せを重ね、連携した取組を実施します。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」とは?

文部科学省の事業である「マイスター・ハイスクール普及促進事業」として北海道が採択されたプロジェクトです。北海道内の専門高校と地域産業界の連携を強化し、次世代の産業を支える人材育成を目指す取組です。専門高校の生徒が実践的な学びを通じて最新の産業技術や知識を習得できる環境を整えることを目的としています。



←「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組はこちらのWebページから

【問い合わせ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

Tel : 011-204-5705 Mail: kitahori.tomotaka@pref.hokkaido.lg.jp



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

【図 44】チラシ（産業実務家教員の募集）

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」



産業実務家教員リスト



北海道教育庁学校教育局高校教育課

【令和7年3月27日作成】

【図 45】産業実務家教員リスト（表紙）

目次

- 「産業実務家教員」一覧・・・・・・・・・・ P 1
- 「産業実務家教員」リスト・・・・・・・・・・ P 3

「産業実務家教員リスト」について

- 「産業実務家教員リスト」は、専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のリストです。生徒に対して、高度な知識・技術や実践的・体験的な学習機会を提供する事を目的としています。
- このリストは、専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる持続的な関係を構築することを目指しています。地域産業の人材育成に向け、産業実務家教員と学校が意見を交わしながら、よりよい連携が行われることを期待しています。
- 産業実務家教員と連携を希望する学校は、リスト内の担当者・連絡先に直接連絡をしてください。教育庁に連絡する必要はありません。
- 交通費や謝礼などの支払いは原則ありません。ただし、連携内容によっては、材料費など実費がかかる場合がありますので、詳細については産業実務家教員と連絡を取り確認してください。

【図 46】産業実務家教員リスト（目次）

(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組

ア 半導体に関する出前授業等

道経済部と連携し、大学教授等を講師に招いた半導体に関する出前授業を、専門高校を含む公立高校 23 校で実施した。

また、地域の企業と連携し、半導体に関するイベント「苫工半導体展」を開催している苫小牧工業高校の取組を、専門高校や産業界に好事例として広く周知した。



出前授業の様子（釧路工業高校）



小中学生向け
プログラミング
教室と同時開催し、
多くの方が来場



「苫工半導体展」チラシ（左）と当日の様子

イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー

道経済部と連携し、メンテナンス等の人材育成・確保に資する取組として、工業高校や水産高校を対象に、オンラインを併用した出前授業とバスツアー（3校）を実施した。



出前授業（北見工業高校）の様子



見学バスツアー（室蘭工業高校）の様子

(4) 各種セミナー

関係機関等と連携し、教員や産業界関係者を対象に各種オンラインセミナーを開催した。

ア 建設 DX 理解促進セミナー [令和6年9月26日(木)開催]

道建設部と連携し、高校教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図ることを目的に開催した。

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、建設DX理解促進セミナーを開催します。



教員向け建設DX理解促進セミナー

令和6年
(2024年)

9月26日(木) 14:00~15:30

※Zoomによる
オンライン

内 容

- ◆講 演 (14:00~14:30)
 - ・演 題: 「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
 - ・講 師: 荒井建設株式会社 取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- ◆説 明 (14:30~14:45)
 - ・内 容: 「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
 - ・説明者: 一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- ◆説 明 (14:45~15:00)
 - ・内 容: 「建設ディレクターの育成について」
 - ・説明者: ヤマグチ株式会社土木部工事管理室
ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- ◆体験談 (15:00~15:10)
 - ・内 容: 「建設ディレクターとしてのやりがい」
 - ・発表者: ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏 (令和元年度工業高校建築科卒)
原田 杏瑞 氏 (令和2年度総合学科卒)
- ◆事例発表 (15:10~15:30)
 - ・内 容: 「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
 - ・発表者: 北海道室蘭工業高等学校環境土木科長 鈴木 圭吾 教諭

参加対象

- 公立高校等において進路指導を担当する教諭、建設分野を担当する教諭等
- 各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー

申込方法・申込〆切

各教育局からの通知に従い申し込んでください。

【主催】建設部建設政策局建設管理課、教育庁学校教育局高校教育課
お問合せ先 TEL 011-204-5810 (建設管理課)



【図 49】チラシ (建設 DX 理解促進セミナー)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「建設DX理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和6年9月26日（木）開催

高等学校において進路指導を担当する教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した進路指導の充実を図るため、道建設部と連携し、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

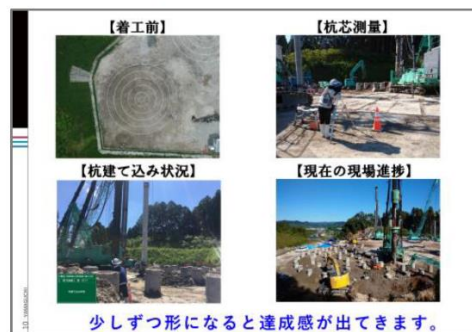
全道から学校関係者19名、教育委員会関係者14名の合わせて33名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

セミナーの内容

- ◆講演（14:00～14:30）
 - ・演題：「DX化に伴い変革が進む建設業における業務内容と働き方」
 - ・講師：荒井建設株式会社取締役土木技術部長 岡崎 竜志 氏
- ◆説明（14:30～14:45）
 - ・内容：「建設業における新しい職域『建設ディレクター』について」
 - ・説明者：一般社団法人建設ディレクター協会 藤田 歩実 氏
- ◆説明（14:45～15:00）
 - ・内容：「建設ディレクターの育成について」
 - ・説明者：ヤマグチ株式会社土木部工事管理室ビジネスイノベーション推進課長 馬場 洋介 氏
- ◆体験談（15:00～15:10）
 - ・内容：「建設ディレクターとしてのやりがい」
 - ・説明者：ヤマグチ株式会社土木部工事管理室 長坪 和 氏、原田 杏瑞 氏
- ◆事例発表（15:10～15:30）
 - ・内容：「地元建設業協会と連携した企業実習の取組」
 - ・発表者：北海道室蘭工業高等学校教諭（環境土木科長） 鈴木 圭吾 氏



講演資料（荒井建設(株)）



体験談資料（ヤマグチ(株)）

セミナー参加者の声

【アンケート結果（一部）】※回答数8

- ▶ 今後の進路指導での参考にさせていただきたい。
- ▶ 実際に働いている資格保有者の方の話を聞いていて、職業人としての在り方が素晴らしいと思った。また、建設業界での女性活躍の観点からも、胸躍るものがあった。
- ▶ 「建設ディレクターとして働きながら施工管理者を目指す」というキャリアデザインを描いている方の話を聞き、自律的にキャリアを構築されていて、建設業界全体における好例になると思った。今後も様々な事例があると思うので、こうした機会に紹介いただきたい。
- ▶ 建設業のDX化を具体的に理解するとともに、建設ディレクターといった業務の存在を知ることができた。今後の個人面談や進路講話において、生かしていきたい。

【図 50】セミナーレポート（建設DX理解促進セミナー）

イ 半導体理解促進セミナー〔令和7年1月14日（火）開催〕

道経済部や半導体の先進地である熊本県教育庁と連携し、高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進することを目的に開催した。

高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進するため、セミナーを開催します。



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

教員・
企業向け

半導体理解促進セミナー

本道
初開催

令和7年
(2025年)

1月14日（火）14:00~15:30

※Zoomによる
オンライン

内 容

◆講 演 (14:00~14:30)

- ・演 題：「半導体の今と未来について」
- ・講 師：北海道大学総長補佐量子集積エレクトロニクス研究センター教授 葛西 誠也 氏

◆説 明 (14:30~14:50)

- ・内 容：「熊本県における半導体関連産業を支える人材育成の取組」
- ・説明者：熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課産業教育指導班主幹 増田 健治 氏

◆体験談 (15:00~15:10)

- ・内 容：「半導体製造装置メンテナンスエンジニアの仕事とやりがい」
- ・説明者：ミツミ電機株式会社千歳事業所ウエファ製造部生産設備課 上野 龍之介 氏
(北海道名寄産業高等学校電子機械科：平成29年3月卒業)

◆事例発表 (15:10~15:30)

- ・内 容：「企業と連携して取り組む半導体を通じたSTEAM教育の実践」
- ・発表者：北海道苫小牧工業高等学校情報技術科教諭 田中 俊正 氏

参加対象

- ▼公立高校等において進路指導、理科及び工業科等の教科指導を担当する教諭等
- ▼各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー
- ▼半導体関連産業の企業関係者及び経済団体関係者等

申込方法

右の2次元コードから専用フォームにアクセスし、必要な情報を入力してください。（定員300台）



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の情報はここから



【主催】北海道教育庁学校教育局高校教育課（お問合せ先：TEL 011-204-5705）
北海道経済部産業振興局次世代半導体戦略室



【図 51】チラシ（半導体理解促進セミナー）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「半導体理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和7年1月14日（火）開催

高校教員等が先端半導体に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった半導体人材育成の取組を推進するため、道経済部と連携し、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者58名、半導体関連企業・経済団体関係者16名、教育委員会関係者20名の合わせて94名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、参考にしてください。

セミナーの内容

- ◆講 演（14:00～14:30）
 - ・演 題：「半導体の今と未来について」
 - ・講 師：北海道大学総長補佐量子集積エレクトロニクス研究センター教授 葛西 誠也 氏
- ◆説 明（14:30～14:50）
 - ・内 容：「熊本県における半導体関連産業を支える人材育成の取組」
 - ・説明者：熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課産業教育指導班主幹 増田 健治 氏
- ◆体験談（15:00～15:10）
 - ・内 容：「半導体製造装置メンテナンスエンジニアの仕事とやりがい」
 - ・説明者：ミツミ電機株式会社千歳事業所ウエファ製造部生産設備課 上野 龍之介 氏
- ◆事例発表（15:10～15:30）
 - ・内 容：「企業と連携して取り組む半導体を通じたSTEAM教育の実践」
 - ・発表者：北海道苫小牧工業高等学校情報技術科教諭 田中 俊正 氏



説明資料（熊本県教育庁）



事例発表資料（苫小牧工業高校）

セミナー参加者の声

- ▶ 半導体の概要や現在の実情及び課題などについて、分かりやすく説明していただけた。
- ▶ 学校や企業、地域とどのように連携をとっていくかの参考となる取組が具体的に聞けた。
- ▶ 熊本県の人材育成における取組では、企業見学に加え、教員や生徒の数日間にわたる研修が、生徒の進路決定にも影響を及ぼす活動であると感じた。
- ▶ 苫小牧工業高校の取組では、生徒の興味や意欲が高まり、企業だけでなく地域全体との連携が重要であることを再認識した。

【アンケート結果（一部）】※回答数33

① セミナーは半導体の理解促進に役立ったか。



- ◎ 「とても役立った」 64%
- 「役立った」 33%
- △ 「少し役立った」 3%

② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

- キャリア教育：16 進路指導：13
- 教科指導：14 企業との連携：12

【図 52】 セミナーレポート（半導体理解促進セミナー）

ウ 観光産業理解促進セミナー [令和7年2月19日(水)開催]

高校教員等が観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成を推進することを目的に開催した。

観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進します。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

観光産業理解促進セミナー

Zoomを利用したオンラインセミナーです

開催日時

【開催日時】
令和7年(2025年)2月19日(水) 14:00～15:35

【参加対象】

- (1) 公立高校等において進路指導を担当する教諭等
- (2) 公立高校等において商業や総合的な探究の時間等で観光に関する取組を担当する教諭等
- (3) 各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザー

【申込み方法】
右の2次元コードを読み込むか、URLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。
(URL) <https://forms.gle/RUbQbCGaNa4ifSAf6>

申込フォーム

第1部

14:05～14:55

講師 「北海道の観光における現状と人材育成」
公益社団法人北海道観光機構 事業企画本部副本部長 生川 幸伸 氏

第2部

14:55～15:35

講師 「小樽市の観光DX推進に関する取組」
一般社団法人小樽観光協会 事務局次長 永岡 朋子 氏

【問合せ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
Tel : 011-204-5705

【図 53】 チラシ（観光産業理解促進セミナー）



令和7年2月19日（水）開催

高校教員等が観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進するため、本道初開催となるオンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者19名、教育委員会関係者17名の合わせて36名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演① (14:05~14:45)

- ・演 題：「北海道の観光における現状と人材育成」
・講 師：公益社団法人北海道観光機構 事業企画本部副本部長 生川 幸伸 氏

◆講演② (14:55~15:25)

- ・演 題：「小樽市の観光DX推進に関する取組」
・講 師：一般社団法人小樽観光協会 事務局次長 永岡 朋子 氏

観光関連人材の育成

■観光関連人材の育成

目的：インバウンドを含めた観光需要に対応できる人材の能力向上

項目	内容	成果
観光協会、自治体職員 (DMO等)	営業研修 (旅行商)	マーケティングによる地域・ビジネスとの連携
交通機関関係者 観光施設 飲食店 アットピア事業者	従業員研修 (派遣店)	・語学外国人受け入れ対応 ・施設 (地域) 特性の理解 ・接客研修
観光業内士	外国人ガイド育成研修、定款対策講座	海外案内・接客の取得
大学士、大学院生	北海道観光英語	北海道観光に関する研究
観光関係者	パブリシティ・PRの研修	観光の企画・推進・実行
アットンチャート を担うスタッフ	北海道観光認定、北海道アットガイド 資格取得に向けた研修	北海道アットガイド業務の取得
アットンチャート を担うスタッフ	国際研修 (外語、サステナビリティ、 アットンチャート、定款(定章)の理解)	北海道A.T.G.I.Dの資格取得 観光士研修 (北海道観光ガイド)
アットガイド	海外研修制度 (先進国での研修)	国際レベルの接客技術の獲得



通訳案内士研修



パリアフリー・ノウハウ研修



アットンチャート
を担うスタッフ

(中)

説明資料（北海道観光機構）

[illegible]

説明資料（小樽市観光協会）

セミナー参加者の声

- ▶ 観光産業の現状と人材育成の課題について学ぶことができた。
- ▶ 国内でもブランド力のある観光地の振興策の概略を知識として得ることができ、生徒に還元できる内容だった。
- ▶ 商業教育やキャリア教育の方向性を検討する上で、実際の観光ビジネスの状況がよく理解できた。
- ▶ ファンコミュニティやデータ収集・分析について、観光ビジネスの学びの中で実例として知ることができた。
- ▶ DXを活用したビジネスモデルや地域の将来構想とからめた観光ビジネスの推進など、今後の商業教育に取り入れたいと思った。

【アンケート結果（一部）】※回答数20

- ① セミナーは観光産業の理解促進に役立ったか。 ② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

100%

- ◎「とても役立った」 50%
○「役立った」 45%
△「少し役立った」 5%

- キャリア教育：8 進路指導：6
教科指導：14 企業との連携：10

【図 54】 セミナーレポート（観光産業理解促進セミナー）

工 洋上風力発電理解促進セミナー〔令和7年2月25日（火）開催〕

高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった洋上風力発電に関する人材育成の取組を推進することを目的に開催した。

専門高校の力が
発揮できる

課題と現実
を理解する

洋上風力発電 理解促進セミナー

これからの
北海道の洋上風力発電に係る人材育成は
どのようなになっていくのか

講演1
「洋上風力発電
を取り巻く現状と
人材育成」

講演2
「洋上風力発電の
推進と漁業協調：
発電事業と漁業が
共存するために」

日本海洋事業株式会社
運航事業管掌運航事業部長委嘱
常務取締役
横田 哲也 氏

長崎大学
海洋未来イノベーション機構
環東シナ海環境資源研究
センター長 河邊 玲 教授

質疑応答

オンライン (Zoom)
日時：令和7年2月25日（火）
14:00～15:35（接続確認13:30～）
ID:854 0686 3426 パスコード：809170
お申込みは右の二次元バーコードから
(URL:<https://forms.gle/663wYbeRioUqxbKr6>)

北海道教育委員会
HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION



【図 55】チラシ（洋上風力発電理解促進セミナー）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「洋上風力発電理解促進セミナー」 セミナーレポート



令和7年2月25日（火）開催

高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった洋上風力発電に関する人材育成の取組を推進するため、オンラインセミナーを開催しました。

道内はもとより、全国から学校関係者21名、関連企業等関係者4名、教育委員会関係者等10名の合わせて35名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので、進路指導等の参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演①（14:05～14:35）

・演題：「洋上風力発電を取り巻く現状と人材育成」

・講師：日本海洋事業株式会社運航事業管掌運航事業部長委嘱常務取締役 横田 哲也 氏

◆講演②（14:35～15:15）

・内容：「洋上風力発電の推進と漁業協調：発電事業と漁業が共存するために」

・説明者：長崎大学海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター教授 河邊 玲 氏

◆質疑応答（15:15～15:35）



講演①資料（日本海洋事業 横田氏）



講演②資料（長崎大学教授 河邊氏）

セミナー参加者の声

- ▶ 洋上風力発電に必要な船舶や、再エネ海域利用法と漁業のあり方について理解を深めることができた。
- ▶ 必要となる人材の求人者数は、雇用の新たな形として、本県でも参考にしたいと考えている。
- ▶ 水産業との共存の話では、学術的な視点も踏まえ、今後、検証する必要性があると強く感じた。
- ▶ 洋上風力事業の経緯や現状を丁寧に説明されていて、必要な人材やスキルのまとめも含めて有益な情報だと感じた。
- ▶ 漁業協調については、これまでのデータ検証に基づく考察や、今後、北海道でも同様に調査を漁業関係者と共に進めていく重要性が認識できて、非常に勉強になった。
- ▶ 洋上風力発電の現場や、これに伴い必要になる職種及び今後どのような人材が求められるのか知ることができた。

【アンケート結果（一部）】※回答数21

① セミナーは洋上風力発電の理解促進に役立ったか。



◎「とても役立った」 47%
○「役立った」 38%
△「少し役立った」 15%

② セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

キャリア教育：9 進路指導：8
教科指導：11 企業との連携：7

【図 56】セミナーレポート（洋上風力発電理解促進セミナー）

オ 職業学科理解促進セミナー

中学校教員の専門高校に関する理解を深め、中学校における進路指導の一層の充実を図るとともに、専門高校の価値や魅力を発信することを目的に開催した。

中学校の先生方の職業学科に関する理解を深め、進路指導の一層の充実を図ることを目的に、職業学科理解促進セミナーを開催します。

中学生の進路指導に役立つ

マイスター・ハイスクール普及促進事業

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

中学校教員向け

職業学科理解促進セミナー

商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



令和6年
(2024年)

10月7日(月) 14:30~16:30

※Zoomによる
オンライン

日程

- (1) 農業科 (14:30~14:45)
- (2) 工業科 (14:45~15:00)
- (3) 商業科 (15:00~15:15)
- 15分休憩——

- (4) 水産科 (15:30~15:45)
- (5) 家庭科 (15:45~16:00)
- (6) 看護科 (16:00~16:15)
- (7) 福祉科 (16:15~16:30)

POINT

01

参加者は**出入り自由**

POINT

02

小学科の違いを理解できる

参加対象

- (1) 中学校教員で参加を希望する者
- (2) 市町村教育委員会職員で参加を希望する者

申込方法・申込〆切

右の2次元コードから、Zoomに接続する端末一台ごとに、参加申込みを行って下さい。【9月30日(月)〆切】



【主催】

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係



【図 57】 チラシ（職業学科理解促進セミナー）

(5) ONE-TEAM コミッティ

産学連携コーディネーターを含む有識者 8 名（委員名簿は次ページに掲載）で構成し、参集形式により、年 3 回の会議を開催した。本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言をいただいた。

〔第 1 回（6 月）〕会場：静内農業高校

- ▶ 事業計画の具体的な検討等
- ▶ 拠点校（静内農業高校）からの情報発信
- ▶ 実習等の視察



〔第 2 回（10 月）〕会場：札幌工業高校

- ▶ 事業 1 年目の中間報告、各種イベント等の検討
- ▶ 実習等の視察



〔第 3 回（2 月）〕会場：道庁別館

- ▶ 産学連携カンファレンスの検討等
- ▶ 今年度の取組の評価、次年度の計画の検討

令和6年度 ONE-TEAM コミッティ委員名簿

氏名	所属・職	役割
月館 海斗	株式会社すみか・代表取締役	産学連携コーディネーター
岡部 善平	小樽商科大学・教授	
百瀬 康弘	北海道経済連合会・常務理事	
和田 順子	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター・事業戦略統括部コーディネーター	
山上 朝香	北海道農政部生産振興局技術普及課・首席普及指導員	
矢野 伸一	北海道経済部産業振興局産業振興課スタートアップ推進室・参事	
桑名 真人	一般社団法人北海道農産協会・てん菜部長	
赤穂 悦生	北海道静内農業高等学校・校長	令和6年度拠点校

(6) 各種調査

ア 学校ヒアリング調査

本プロジェクトを専門高校にとって有益な取組とするため、専門高校を対象に、産学連携についての現状や考え方などを把握するヒアリング調査を実施した。(回答数 159)

調査結果は、「ONE-TEAM ニュース第2号」(19 ページ参照)に掲載し、学校と産業界で共有することで、両者が産学連携の成果や課題等を把握できた。

イ 企業ヒアリング調査

北海道産業教育審議会と連携し、専門高校や経済団体等を通じて、企業を対象とした産学連携に関する調査を実施した。(回答数 224)

企業実習やインターンシップの受入れ状況のほか、企業側の産学連携における成果や課題等を把握できた。内容及び分析結果については、令和7年11月に北海道産業教育審議会から建議として報告される予定である。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。



専門高校と産業界の連携における課題

- ①連携した取組が少ない
- ②連携の進め方や配慮点が不明
- ③ニーズ等が異なり、連携が進みづらい
- ④教員が多忙なため企業等と調整不足

横と縦の系で
専門高校の
つながりを支援

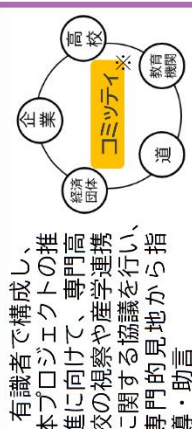
横のつながり

専門高校が**学部の垣根を越えて連携し**、効果的な職業人材育成システムを、他の専門高校に**自主可能な形で横展開**

縦のつながり

専門高校と**企業や中学校との縦の連携**を促進するとともに、**地域創生**を担う産業人材を育成している**専門高校の価値や魅力**を広く発信

ONE-TEAMコミュニティの発足



※委員会

本プロジェクトのゴールイメージ



※持続可能な、ずっと続いていく

KPI

- ① 産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合（道立の専門高校56校）
【R5: 7%（実績値）▶ R6: 14% ▶ R7: 50%】
- ② 産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら教育活動を行っている専門高校の割合（道立の専門高校のうち、農工商水54校）
【R5: 54%（実績値）▶ R6: 61% ▶ R7: 91%】

産学連携コーディネーターの役割



- ◆人のつながりを生む機会を創出
産学連携カンファレンスなど、産学連携に資する機会を創出し、専門高校と産業界等を、学科の特性に応じて**人的につなげる**

産業界実務家教員リストの作成

- ◆産業界実務家教員リストの作成
謝金等が不要で出前授業等が可能な**職業人をデータベース化**したリストを作成し、持続可能な産学連携を促進

【データベース】



- ◆新たな産業や専門高校への理解促進
DXを活用して働く専門高校の卒業生や、産学連携、学科の垣根を越えた連携などの事例を紹介する**おしごとガイドブック**を制作し、中高生や経済団体に配付

管理機関の役割

- ◆ONE-TEAMコミュニティを設置し、広域分散型の本道における産学連携の推進に向けて、拠点校と協力しながらプロジェクトを展開
- ◆産学連携コーディネーターを配置し、専門高校の産学連携を支援
- ◆専門高校を拠点とした**地域創生や地域人材の育成**に資する取組を推進
- ◆**専門高校の価値や魅力**を産業界や中学校に普及・啓発



横展開のイメージと拠点校の役割



【図58】 令和6年度成果概要図（1ページ目／全3ページ）